



## 創立の背景と歴史

香蘭女学校は、1888年(明治21)東京府麻布区永坂町の島津忠亮子爵邸の一部を借り、7名の生徒で開校しました。小学校、神学部、手芸部を相次いで付設し、やがて生徒数100名ほどまでに発展しました。当時、多くの宣教師たちがイギリスから来て香蘭女学校のために尽力し、それは1953年(昭和28)イギリスのSPGより派遣されたミス・M・F・チャンドラ(～1985年(昭和60))まで続きました。

1903年(明治36)日本聖公会の養老院のために、チャリティバザーを開催。以来、生徒手作りの品を持ち寄る心づくしのバザーは、今日まで100年以上にわたって変わることなく続けられています。

1910年(明治43)11月16日、失火による火災が起りましたが存続を望む支援者の協力を得て、1912年(大正1)には東京・芝区白金三光町に新校舎が落成しました。香蘭女学校の創立記念日9月19日は、この日に因んだものです。

白金時代には、1920年(大正9)ミス・M・グリンストリートの指導のもとに、イギリス・ガールガイド(のちのガールスカウト)の支部「日本女子補導団東京第一組」が誕生。日本におけるガールスカウト発祥の地となりました。部活動の中にガールスカウト部があり、キャンプや奉仕活動、さらにはイギリス・ガールガイドとの交流やガールスカウト日本連盟海外派遣への参加など多彩な活動を行ない、名誉ある東京第一団として重要な役割を、今も続けています。

またこの年には、ミセス・W・D・スパックマンの指導により聖歌隊が創設。創立記念日を休校にする学校が多い中、香蘭女学校では今でも全員登校し、創立記念音楽会として東京交響楽団のオーケストラ演奏を聴く集いを礼拝堂で行なっています。高校生が歌う英唱歌ハレルヤ・コーラスと全校生が歌う校歌も東京交響楽団が伴奏するという、文化の香りが立つ創立記念日です。

生徒数増加により、1941年(昭和16)荏原区平塚の現在地に移転。東洋汽船や日本鋼管にも関係した実業家伊藤幸次郎の邸宅跡で、1918年(大正7)に竣工した英国コテージ風の瀟洒な洋館を本館として生かした校舎でした。しかし同じ年に日中戦争が勃発、日英関係の悪化により、1940年(昭和15)と1942年(昭和17)副校長ミス・L・K・タナーらが相次いで帰国。戦争の激化に伴い校内に帝都防衛部隊が置かれ、やがて教室は工場と化してしまいました。また、軍部に強いられて第4代校長の井上仁吉、鈴木二郎教頭、志保澤トキ教諭らが相次いで退職させられ、代わりに東京都教育庁から視学官 篠原雅雄が派遣され校長になるという、学校史上最も暗い時期を耐えることになりました。

1945年(昭和20)5月24日夜の空襲で校舎は全焼。そして、8月15日敗戦。数日後、理事長 佐々木鎮次主教は拷問によって痛めた足を引きずりながら焼跡に立ち、まず神に感謝の祈りを捧げ、続いて全校生徒と教職員に向かい復校の宣言をし、さらに篠原校長の罷免を発表しました。

11月には九品仏浄真寺の境内の一棟を校舎として借り、授業を再開。教職員からも相次いで復帰し、ミス・A・K・ウーレーやミス・M・E・ヘイルストンもイギリスから帰任します。1948年(昭和23)11月には新校舎が竣工し、現在地に戻ることができませんでした。



創立者 エドワード・ピカステス主教 (1850～1897年)  
強い指導力を発揮し、  
現在の日本聖公会の基礎を築きました。



## 創立

1873年(明治6)にキリシタン禁制の高札が撤去され、英国聖公会(The Anglican Church)の福音宣布協会(SPG:Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Part)と1799年にアジア・アフリカ宣教のために設けられた宣教協会(CMS:Church Missionary Society)並びにアメリカ聖公会(The Episcopal Church in the United States of America)による宣教活動が本格化。1886年(明治19)英国聖公会は、逝去したブル主教の後任に、エドワード・ピカステスを第2代日本主教として派遣しました。

ピカステス主教の父ヘンリーも聖職者で、インド北部のデルヒに息子が宣教に行くことに決まったとき、「我が為、そして福音の為」と言ったといわれ、以来この言葉はケンブリッジ大学宣教団の標語として伝えられたといえます。

ピカステス主教は、当時、イギリスのSPGとCMS及び、アメリカの聖公会伝道局が行っていた活動の統一を主導し、1887年(明治20)2月、日本聖公会の組織成立を実現させました。ピカステス主教はまた、1896年(明治29)の日本聖公会第5総会において、現在の日本聖公会11教区の母体となる6地方部を確立しました。このとき愛岐・信越地区は南東京地方部(South Tokyo Diocese)に所属することになり、その内、隅田川以南の東京の諸教会と現在の横浜教区の諸教会の基礎はほとんどSPG派遣の宣教師によって築き上げられました。

聖アンデレ伝道団と聖ヒルダ伝道団も、ピカステス主教によって創設されたものです。聖ヒルダ伝道団の諸事業の一つとして女学校の設立を図ったのは、日本女性固有の徳をキリスト教精神によりさらに昇華することの急務を痛感したことに因ります。1887年(明治20)、今井寿道に香蘭女学校設置願を出願させ、同年11月認可。そこにはA・C・ショー、A・F・キング、吉澤直江の大いなる協力がありました。

香蘭女学校の欧名St. Hildaは、聖人に列せられた修女 聖ヒルダの名に因んでつけられたものです(聖公会では修道女でなく修女といえます)。香蘭女学校では、聖ヒルダの名に恥じない良き学びと交わりを常に心がけています。

## 建学の精神

日本女性固有の徳性を、キリスト教倫理によりさらに昇華することを目的とする。



香蘭女学校 校章・マーク  
1978年(昭和53)に創立90周年記念のお祝いとして、父母の会が学校に寄贈することになった新しい校旗に美術科教員であった廣澤隆太が、戦前からの校章を参考にデザインしたものです。

## 学校法人 香蘭女学校

〒142-0064 東京都品川区旗の台6-22-21

TEL: 03-3786-1136 FAX: 03-3786-1238